

「南洋神楽プロジェクト」のメンバー3名を招聘し、真庭市および瀬戸内市にて公演を行った ジュクン・ミュージック

活動の目的

岡山県内の子どもたち、特に中山間部の子どもたちに質の高い本物の芸術に直接触れてもらえる機会を作る。今回は東京よりアジアやアラブの芸能を学びオリジナルの舞台作品を創作し続けてきた「南洋神楽プロジェクト」のメンバーを招聘し、普段観ることのないスタイルの舞台作品に触れることで新しい可能性を感じとってもらうと共に、異国の文化を学びつつそれを消化し自らのものとして表現につなげていくという姿を見てもらうことで、国際社会の中で異文化と触れ合う際のひとつのヒントとなる。

活動の内容及び経過

6月21日に東京からのメンバーが岡山入り、午後リハーサル。

翌22日は真庭市勝山、勝山文化往来館「ひしお」にて公演を行なった（大人35名、子ども5名）。24日には初めての場所である瀬戸内市備前福島「仲崎邸」にて公演（大人42名、子ども3名）。

アラブのパーカッション、インドネシアのガムラン、日本の箏、そしてボーカルを中心に組み立てた音楽と共に、芥川龍之介の「杜子春」をベースとした脚本を演出、舞台作品として上演した。

活動の成果・効果

公演内容には多くの方々から好評をいただくことができた。日本の箏がアジアの楽器の中で響くことによりむしろ日本を飛び越えてアジアの響きとなっていたという意見や、各国の楽器の響きが融合して元々こういう音楽だったように思えるという意見、杜子春という教科書にも載っているような物語がアジアの芸能として立ち現われることでよく知っている物語が新鮮に感じた、などの意見をいただき、質の高い本物の芸術を岡山の市民の皆さんに届けるという目標は達成できたと感じる。

いつも我々の公演の時には小学生以下無料とし、子どもたちに出来るだけ本物の芸術に触れて欲しいと考えており、今回も高梁市を中心に活動している「金のプロペラ舎」と共に小学校公演を行う計画を立てていたが、今回は予算との兼ね合いや学校行事との兼ね合いから、実現できず、その分「金のプロペラ舎」からの声かけで21日のリハーサルを希望する子どもたちに解放すること、勝山の公演に招待することを試みた。結果として、やはり学校行事やその他の集まり、農繁期に当たっていたことなどが重なり思うように子どもたちを集めることができなかったが、それでもこうした事業を続けていくことでだんだんと浸透していく



ものでもあり、今後もアイディアを出しつつ継続して行きたいと思う。

勝山の公演ではいつも楽しみにしてくださる方々が来てくださり、公演内容を高く評価していただくことができた。

備前福島での公演は今回初めての場所で、当初考えていた岡山市内の蔭涼寺が法事のために日程が合わなかったため集客に不安もあったが、仲崎邸を管理している地元の皆様の協力もあって、客席は満席となった。また、こうした新しい場所で新しい人たちとの繋がりができたことは、今後の活動にとって大きな財産となると思う。

今後の課題と問題点

目的のひとつである子どもたちに本物の芸術を届けるということについて、より効果的な方法を考えていく必要がある。

今回良かった点として、新しい場所で新しい人たちの協力の下で公演が開催できたこと。備前福島の仲崎邸を管理している地元の皆さんにも続けていってほしいと言われたり、今後も積極的にこのような新しい繋がりを作り、広げていくことが新しい可能性に繋がり、そのことで今回課題となったより多くの子どもたちに届けたいということも可能性が広がっていくのだと思う。

- 代表者：小谷野哲郎 ●所在地：真庭市勝山
- TEL：080-4195-1811 ●E-MAIL：jukung@me.com
- URL：urotsute.com
- 設立年：2001年 ●メンバー数：5名